

令和2年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
大学院部会	○	○	○	○	○					
○今年度の取組状況 1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。研究力アップのために、教員の研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」の開催を継続していく。 社会福祉学研究科では、大学院担当教員への昇格を促進し、指導体制の充実を図った。保健科学研究科では、生命医科関連教員の充実、カリキュラムの見直しを行い、臨床検査部門の充実を図り時代のニーズに対応できる体制となった。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす対策を継続し実施中である。「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、コロナ感染拡大防止のため、社会的な状況に合わせて延期中である。 2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。 研究科ごとに対応を検討した。定員充足率は、社会福祉学研究科 修士課程 23%、連合社会福祉学研究科 博士（後期）課程 87%、保健科学研究科 博士（前期）課程 150%、保健科学研究科 博士（後期）課程 22%、医療薬学研究科 博士課程は 19%となっている。 社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリング時に広報活動を継続して行い、また、課題であった修士課程の定員の見直しを行った。保健科学研究科では、広報を各専門分野の学術委員会などで行い充足を目指したが、コロナの影響で入学を延期するケースが多々見られ、十分な充足には至っていない。医療薬学研究科では、夜間に講義を受講できる体制であることなどをアピールしながら、卒業生を含めた地域の医療人を対象に広報活動を継続的に行ってきたが、入学者を確保できていない。そこで、就学条件の見直しの方向での大学院規則の検証を開始した。 3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。 社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用して、福祉などの現場と連携強化を図る取り組みを継続して行っている。保健科学研究科では、修士 200 名計画が進行中で、すでに 162 名が臨床現場で活躍しており、良好な連携が行われつつある。医療薬学研究科では、院生の多くが現場に出向いて実務経験を積んでおり、研究科としても奨励している。継続して実施中である。										

○来年度の計画案

1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。社会福祉学研究科では、指導体制の充実を図る取り組みを継続する。保健科学研究科では、教員個々の研究指導内容が具体的にわかるよう、ホームページの見直しを行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。研究力アップのために、一般公開される教員の研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、コロナ禍の現状を踏まえ、最善の開催形態での実施を検討する。
2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリングを活用した広報活動を継続する。保健科学研究科では、生命医科学部からの入学に加えて現場で働いている臨床検査技師の入学を促すため、臨床検査関連の学会誌などへの広報を検討する。医療薬学研究科では、時代のニーズに対応した大学院規則の検証を行い、定期的な通学が困難な地域の医療人が入学しやすい環境を整える。
3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用した取り組みを継続する。保健科学研究科では、修士取得者との情報交換をさらに推し進め、研究の充実と後輩の大学院進学を試みる。医療薬学研究科では、医療人の実務の遂行において大学院での研究活動がいかに有効であるかを継続してアピールする。